

川添ヤギ牧場



○川添ヤギ牧場 川添 建太郎

川添ヤギ牧場

【事業概要】

高知県・南国市の自家牧場でヤギを約70頭飼育(5.31現在)、ヤギ乳を生産・販売
自給飼料を100%使用、飼育方法に工夫を重ね、臭みがないヤギ乳の生産に成功

【沿革】

2011年： 高知県南国市でヤギの飼育を開始

2013年： 臭みがないヤギ乳の生産に成功

2014年： やぎミルクジェラート共同開発 ドルチェかがみ(高知県香南市)

→第2回スイーツグランプリ in 高知 アイスクリーム部門 第1位

2015年： 高知大学土佐FBCで課題研究に取り組む「ヤギ乳の食品化学特性」

2016年2月： 高知県産業振興計画 物部川地域アクションプラン

「ヤギミルク事業」に採択

5月： (株)ひまわり乳業と提携し、ヤギミルク(飲料用)を
インターネット、小売店で販売開始

【今後】

2017年 新畜舎の建設(200頭収容可能)

2020年 搾乳ヤギ200頭規模を目指す(国内最大規模)



ヤギ乳が高知県の特産品となるよう、増産体制の構築を進めている

農業助成金の活用

・農業には様々な助成制度がある。場合によっては収入の半分を占めることもある。

エサ

- ・飼料用米 1,000m²当たり、国から8万円 県・市から2万円で10万円
- ・牧草 1,000m²当たり5万円

	川添ヤギ牧場	他ヤギ牧場
エサ代	0	-300万円
エサにかかわる人件費及び資材代	-380万円	-80万円
エサ助成金	350万円	0
エサにかかわる最終コスト	-30万円	-380万円

自給飼料100%と謳え、コスト削減できる。

農業 資金調達

一般的には

- ・青年就農給付金(年間150万円 5年間) 新規就農者認定が必要
- ・農業近代化資金・農業改良資金など金利がほぼ0パーセント。

(認定農業者等になる必要がある。審査員にJAや農業振興センターなどが入るため、地域でメジャーな農業をする方が有利)

JAと取引がない、新しいタイプの農業など、上記の支援が難しい場合

- ・地方銀行などからの資金調達

事業の信頼度、確実性を高める取組み

1. 新しい産業として認識してもらうためには

- 売上の増加 毎年1.7倍程度で増加中
- 継続性、将来性 今後5年程度の見通しはある
- 市場の規模 ほとんどないが、潜在的需要がある
- 現状商品との差別化 牛乳との差別化、自給飼料100パーセント
- 社会的機会 健康志向、過去に飲んだ経験がある、
イメージ

2. 地域での協力体制

- ・自治体との協力 地域アクションプラン等の活用(地域の特産品化)
- ・大学との協力 ミルクや肉の成分分析・季節外繁殖、雌雄産み分け等の研究
- ・地元での協力 飼料生産組合の設立(エサの安定供給)
- ・企業との協力 加工販売、販路拡大(ひまわり乳業など)

3. 確実な販売先の確保

ヤギミルク(飲用)

ひまわり乳業

ヤギミルク(加工用)

菓子等の原材料 レストラン ペットフード原料

ヤギの貸出し

レストラン(トリトン)

ヤギ肉

レストラン

将来はチーズなど

チーズ

	設備投資費	チーズ製造費	牧場維持費	売上	利益
原材料としてのミルク(50リットル/日)	30万円	0	600万円	648万円	48万円
原材料としてのミルク(100リットル/日)	60万円	0	1100万円	1296万円	196万円
原材料としてのミルク(200リットル/日)	100万円	0	2000万円	2592万円	492万円
チーズ (50リットル/日 5kg/日)	3000万円	380万円	600万円	1200万円	220万円
チーズ(100リットル/日 10kg/日)	3300万円	500万円	1100万円	2400万円	800万円
チーズ(200リットル/日 20kg/日)	3500万円	700万円	2000万円	4800万円	2100万円

チーズの メリット 単価が高い 販売期間が長い

デメリット 設備投資費が高い 新しいコスト(製造費、人件費)がかかる

6次化の条件

単価が高い・一定以上の規模・設備投資費が安い・容易にまねできない

収入・支出時期の偏り

稲作(50,000m²)の場合

支出(350万円)

3月 苗つくり(種もみ・土・消毒薬・保温用ビニール) 80万円

4月 定植 (除草剤・肥料) 80万円

8月 刈取 (米袋) 10万円

12月 土地代(借地料) 10万円

その他(農機具償却費等) 170万円

収入(480万円)

8月 米販売